

地域研究の意義と成果の発信のために

山本 博之 地域研究コンソーシアム運営委員長

2020年3月上旬の現在、日本を含む世界各地で新型コロナウイルス感染症への対応が課題になっている。私の研究対象地域であるボルネオ島のサバでも外国からの入境者に注意を向けており、2月末に私がサバを訪れたときには、過去2週間以内の渡航歴や発熱などの自覚症状の有無を尋ねる即席のチェックシートが宿泊施設に用意されていた。日本から来た私を潜在的な感染者であるかのように扱うチェックシートを差し出した担当者は、決まりなので記入を求めないわけにはいかないからと申し訳なさそうに説明しながら私に記入を求めた。

決まりには従わないわけにはいかないけれど、それによって目の前にいる相手と自分の間に線引きせざるを得ない状況に置かれた担当者の申し訳なさそうな表情を見て、大学院生時代にサバに長期滞在して調査していたときの居候先の「父」のことを思い出した。私の滞在中に居候先で葬式があり、数日に及ぶ共食のうち一度だけ、非イスラム教徒には食べさせない肉料理が振る舞われる日があった。村で唯一の非イスラム教徒だった私にその肉料理を食べさせるわけにいかず、かといって家族の一員として暮らしている私だけ別扱いにすることは気持ちが許さなかったようだ。「父」と「母」は悩んだ末に、その肉料理と同じ鍋で一緒に料理した別の肉料理を私が食べるという妙手を思いつき、申し訳なさそうに説明しながら私に許しを求めたのだった。

私は相手の民族や宗教によって付き合い方を変えないサバらしさがよく表れていると思ったが、首都クアラルンプールや近隣の都市部に住むイスラム教徒たちにこの話をする、サバのイスラム教徒の信仰に対する未成熟さの表れと受け止めた反応が返ってきた。世界から自分たちがどのように評価されるかを常に意識する人たちの目で見ると、個々の現場で意味を持つ営みが、外部の基準にあわないという理由で未成熟だと評価される。このことの意味について考えながら帰国すると、縁あって地域研究コンソーシアム(JCAS)の事務局を担当することになった。『地域研究コンソーシアム・ニュース』の創刊号(第00号)にエッセイを書くことになり、「ボルネオの首飾り」というタイトルでサバの「父」と「母」の妙手について書いた(エッセイ「フィールドと出会いと」、2004年10月)。

それ以来、JCASと関わりながら、地域研究の成果は誰がどのように評価するのが適切なのかを考えてきた。

地域研究では対象地域の個性を重視するため、対象地域を越えて研究成果を評価するの

は難しい。また、対象地域との関わりを重視する立場では、狭義の調査研究から一步外に踏み出すような研究もあり、それを研究成果としてどのように評価するのかという問題もある。そもそも研究成果を横一線に並べて統一的な基準で評価するのは地域研究に馴染まないという考え方もあるだろう。

ただし、そう言っているだけでは地域を越えた地域研究の成果を評価することができず、その結果、異業種や異分野の人に地域研究の成果の意義を説得的に示すこともできなくなる。さらに、自分たちで適切な評価方法が示せないとすれば、他の学問分野で用いられている評価方法を「とりあえず」の方法として用いることが求められるかもしれない。被引用回数によって論文を評価する方法はその1つである。

同じ環境で同じ操作を行えば同じ結果が出ることを前提とする学問分野と異なり、調査や議論を行う際に、どのような前提を置き、どのようにデータを収集し、それをどのように分析するのが機械化されていない学問分野では、個々の論文が正しいか誤っているかを判断して正しい論文だけ積み重ねていくことが学術研究を進展させるとは限らない。納得しがたい論文であっても、それが正しいか誤っているかを判断するのではなく、前提やデータ収集や分析などのどの部分がどう納得できないのかを示し、それを共有することが学術研究の発展につながるはずだ。このような学問分野では、被引用回数の多さだけで論文を評価することは、評価方法として不適切であるだけでなく、学術研究の適切な発展を妨げることにもなりかねない。

JCASは、年次集会・公開シンポジウムの開催、オンライン・ジャーナルの編集・刊行、JCAS賞の顕彰という3つの柱となる活動を進めてきた。これらの活動を通じて所属組織や専門の分野・地域を越えて地域研究の成果を評価する試みを重ねてきたと言える。2020年4月には地域研究構想部会が新設され、新たに選出される運営委員長のもと、地域研究の成果を誰がどう評価するのが適切かという課題を含めて検討が始められることになっている。

2020年度からJCASの事務局が東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所に移る。同研究所長である星泉会長のもと、飯塚正人事務局長に支えられて、幅広く多様な組織や人びとが集まるJCASの活動を通じて地域研究の意義と成果がいっそう積極的に発信されていくことに大いに期待している。